シミュレーション技法によるデザイン高度化

- CAD による繊維デザインの開発 -

繊維工業指導所

図案部 堀井 暉栄 渡辺

豊

1. 緒言

作る側の勝手でものを作って売る時代は終わった。消費者ニーズが多様化・個性化している今日、消費者ニーズに添ったデザイン開発が重要視されている。当所では、これらの情報を収集するため東京・名古屋・京都・大阪地区の消費地問屋、百貨店を対象にデザインの動向調査を実施し、その結果を分析して、需要層拡大のため消費者趣向に対応した新しいデザイン(結城紬・石下紬)をCADシステムを活用して試作・研究を行った。

また、調査結果については、発表会を通して業界に普及指導し、次季向き製品作りの一助とした。

2. 調査内容

2.1 市場におけるデザイン動向

手作り製品である結城紬の愛好者は、依然として40～50才代の熟年層が中心となっているが、石下紬の場合は若年層から年配までと範囲が広い。

柄傾向においては、結城紬・石下紬とも変わりなく古典的模様(名物裂・慶長・正倉院・幾何文様)が主流で年代に合ったデザインの開発が望まれているが、古典だけでなくおしゃれ感覚のデザインも必要視されている。

構成的には、細工紬の中の一部によこ紬等を取り入れ立体感を表現したデザイン、モロ紬と亀甲、十字紬を併用した新しい感覚のデザイン、古典調に現代感覚を取り入れた斬新なデザインで長く着られるもの、総詰め柄より、空間をうまく利用しすっきり上げたもの、飛び柄のすっきりしたもの等、全体に柔らかい感じの伸びのあるデザインが望まれている。

色彩は、従来と変わりなく地色は紺系が主力であるが、2枚目以上の消費者向けに多種多彩な変り色の研究も望まれている。配色は単彩調か同系色濃淡調のものや、これらの中に強烈な色(反対色)をほんの一部に使用し斬新さを表現したものも好まれている。

また、色の使い方としては、古典柄には古典の色使い、しゃれものには変り色をとった色使いを望んでいる。

2.2 デザインの試作

デザインの動向調査結果をもとに、古典文様である名物裂、慶長文様、正倉院文様、幾何的文様等に現

代感覚の息を吹き込み結城紬及び石下紬の素材に合ったデザインにアレンジしたもの、すっきり上げた飛び柄、モロ紺・亀甲・十字紺併用のもの、複合紺(100 亀甲・十字と 160 亀甲・十字使い)により立体感を表現したもの等、若年層から年配層を含めた広範囲を念頭においた構図 55 点を考案し C A D システムを活用して試作した。

2.3 結果

動向調査に基づき古典文様を主体にした結城紬及び石下紬応用デザインの試作、研究を行った結果、デザインの作成については、C A D システムを活用し、ディジタイズによるパターンの構成と、グラフィックディスプレイ上にて紺コピー、紺展開によるパターンの構成を行うことにより、従来と違った新しい感覚のデザインを作り出すことができた。

また、これらのデザインは業界の要望に応じて柄の修正、新デザインの開発ができるよう、すべてディスクに登録し保存した。

3. 結言

現在消費者が、きものを購入する場合の印象は 1 色・2 柄で、結城紬・石下紬にも同様のことがいえる。競合産地に勝つためには結城紬・石下紬の素材に合った色・柄の付加価値を加え、他産地に対する差別化を図った特徴あるデザイン開発が望まれているが、デザイナー不足等により新しいデザイン開発に対応しきれないのが現状である。このため、当所としては、市場動向調査を実施し、情報の提供及び消費者ニーズに添ったデザイン 55 点を試作した。

これらのデザインは、業界が要望している C A D システムを活用、即、利用可能な設計図案とし、本場結城紬卸商協同組合員及び茨城県結城郡織物協同組合員を対象に作品の展示発表会を実施、業界に希望配布して、結城紬及び石下紬のデザイン向上に役立てた。

なお、今後は年々減少傾向にある紬に歯止めをかけるため、着用範囲を広げたデザインの試作・研究を行ってゆく考えである。